

『ジェンダー研究』27号では、暴力とセクシュアリティ／ジェンダーの関係をグローバル政治の領域において考察する特集を企画した。セクシュアリティはそれを取り巻く権力関係、すなわち、望ましいセクシュアリティとは何かを定義してそれを監視・管理したり、そこから逸脱するものを処罰したり、保護すべきものを選別するといった権力の作用と切り離して考えることはできない。

これまでフェミニズムは、個人的な問題とみなされ、またしばしばロマンティックな行為として正当化されてきた親密な暴力を、ジェンダーに基づく構造的な暴力として定義し直してきた。そして、セクシュアリティ／ジェンダーをめぐる諸課題を人権の問題として位置付けた。その結果、新しい法律の設定などの成果も成し遂げられてきた。

しかし、こうしたフェミニズムによるセクシュアリティ／ジェンダーへの介入が、一方では、更なる暴力や排除を生み出す根拠として、権力によって大いに動員されてきたことも事実である。時にはあからさまに排除的な政策によって、あるいは良き市民を守るためという自衛の名のもとで行われる恣意的な線引きによって、セクシュアリティ／ジェンダーは、暴力で制圧すべき他者を描き出す原動力として動員されるようになってきている。今日世界各地で横行する紛争や武力の行使はこのような側面を考えずに理解することはできないであろう。

昨年12月にジェンダー研究所が開催した国際シンポジウム『グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力』では3本の論稿が報告され、神戸大学教授の青山薫さんによるコメントとともに活発な議論が行われた。本特集にはその時の議論を踏まえて完成された研究論文を掲載することができた。セクシュアリティ／ジェンダーはなぜ、どのように戦争や暴力を正当化するために動員されるのかという難題に対して、本特集が糸口を見つけるきっかけとなることができたら幸いである。

2024年6月21日
編集長 申琪榮

1 巻頭言 申 琪榮

特集

グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力

研究論文

- 5 Womenomics Theories of Sexual Violence: Governing Toxic Men
Carol Harrington
- 23 From Security Threat to Subject of Protection:
Examining Global Sexuality Politics in the Refugee Protection Regime
Haruko Kudo
- 41 ジェンダー・オリエンタリズムと定義する権力——イスラエルとエジプトの事例をもとに
嶺崎 寛子

投稿論文

- 59 国際協力NGOのネット広告にみるジェンダー表象——ポストフェミニズムと結託する植民地主義
近藤 凜太郎
- 75 母たちが／と読む『母親になって後悔してる』
北村 文
- 89 自治体非正規雇用の官民比較——男女共同参画センター相談員の全国調査結果から
横山 麻衣、瀬戸 健太郎
- 105 なぜ経済的リソースは「世帯内意思決定」に活かされないのか
——インド都市の有配偶就業女性のエンパワーメント
新村 恵美

書評

- 122 ミランダ・フリッカー (佐藤邦政監訳、飯塚理恵訳)
『認識的不正義 権力は知ることの倫理にどのようにかわるのか』勁草書房
三木 那由他
- 124 江原由美子
『持続するフェミニズムのために グローバリゼーションと「第二の近代」を生き抜く理論へ』有斐閣
板井 広明
- 126 メアリー・ホークスワース (新井美佐子、左高慎也、島袋海理、見崎恵子訳)
『ジェンダーと政治理論 インターセクショナルなフェミニズムの地平』明石書店
山岸 大樹
- 128 レイウイン・コンネル (伊藤公雄訳) 『マスキュリニティーズ 男性性の社会科学』新曜社
小口 藍子

- 130 クォンキム・ヒョンヨン（影本剛、ハン・ディディ訳）
『被害と加害のフェミニズム #MeToo以降を展望する』解放出版社
古橋 綾
- 132 アンジェラ・マクロビー（田中東子、河野真太郎訳）
『フェミニズムとレジリエンスの政治 ジェンダー、メディア、そして福祉の終焉』青土社
関根 麻里恵
- 134 カイラ・シュラー（飯野由里子監訳、川副智子訳）
『ホワイト・フェミニズムを解体する インターセクショナル・フェミニズムによる対抗史』明石書店
荒木 和華子
- 136 アミア・スリニヴァサン（山田文訳、清水晶子特別解説）『セックスする権利』勁草書房
戸谷 知尋
- 138 長田華子、金井郁、古沢希代子編『フェミニスト経済学 経済社会をジェンダーでとらえる』有斐閣
新井 美佐子
- 140 クラウディア・ゴールディン（鹿田昌美訳）
『なぜ男女の賃金に格差があるのか 女性の生き方の経済学』慶応義塾大学出版会
金井 郁
- 142 額賀美紗子、藤田結子『働く母親と階層化 仕事・家庭教育・食事をめぐるジレンマ』勁草書房
杉浦 浩美
- 144 アンジェラ・チェン（羽生有希訳）『ACE アセクシュアルから見たセックスと社会のこと』左右社
松浦 優
- 146 杉浦郁子、前川直哉『「地方」と性的マイノリティ 東北6県のインタビューから』青弓社
酒井 晃
- 148 平井和子『占領下の女性たち 日本と満洲の性暴力・性売買・「親密な交際」』岩波書店
山本 めゆ
- 150 吉良智子『女性画家たちと戦争』平凡社
マグダレナ・コウオジェイ
- 152 飯田祐子、中谷いずみ、笹尾佳代編著
『プロレタリア文学とジェンダー 階級・ナラティブ・インターセクショナルリティ』青弓社
菊地 優美
- 154 寺澤優『戦前日本の私娼・性風俗産業と大衆社会 売買春・恋愛の近現代史』有志舎
嶽本 新奈
- 156 高雄きくえ編『広島 爆心都市からあいだの都市へ
「ジェンダー×植民地主義 交差点としてのヒロシマ」連続講座論考集』インパクト出版会
宋 連玉
- 158 Amanda Kennell『ALICE IN JAPANESE WONDERLANDS: TRANSLATION, ADAPTATION, MEDIATION』
University of Hawai'i Press
Nozomi Lynette Uematsu
- 160 編集方針・投稿規定

